第６回

緑の風便り

キーワードは在宅医療

笹壁弘嗣
新庄徳洲会病院院長

当院が立地する新庄市と周辺の町村は高齢化が進み、人口減少率も高く、遠からず高齢者人口も減少します。数年前から介護施設が雨後のタケノコのように増えたため、入院患者さんは少なくなってきました。このような状況では、これまでやってきたことを漫然と継続するのではなく、地域のニーズをくみ取り、医療の質を向上させなければなりません。

キーワードは「在宅医療」です。当院の強みは、さまざまな医療・介護サービスを在宅で提供しつつ、いざとなれば入院もできることです。先日も食道がんで在宅死を望む患者さんを、ご家族や訪問看護ステーションのスタッフとの連携で看取ることができました。毎年８月に開催する名物の「新庄まつり」までは、もたないかもしれないと思っていましたが、10月、家族に見守られながら苦痛なく最期を迎えられました。現行の医療のなかに在宅医療をどう組み込んでいくか――これからの当院の主要なテーマです。

医療・介護サービスを在宅で提供する